



かけはし

238号

2025年8月

ご自由にお持ちください

特集
リハビリ通信

看護師とともに患者さんを支える「看護補助者」のおしごと
夏を乗り越えよう!
～「暑熱順化(しょねつじゅんか)」で、夏に負けない体に～

狭くとも
わが家の風呂場は
五つ星のオアシス!



体にまとわりついた
暑気をシャワーで
削ぎ落とす



作: 南 久美子



学生会 滋賀県病院
特集
-Feature-

看護師とともに患者さんを支える 「看護補助者」のおしごと

入院中にベッドの周りを整えてくれたり、
移動を手伝ってくれる職員に助けられたことはありませんか？

1. 「看護補助者」とは？

皆さんは「看護補助者」と聞いてどんな仕事を思い浮かべますか？従来であれば看護師の仕事を助けるため、シーツの交換や食事の配膳をするイメージがあるかもしれません。しかし、当院の看護補助者は医療チームの一員として、看護師と一緒により患者さんに近いところで、入院生活を支える大きな役割を担っています。

主に食事摂取や排泄の介助、着替え、口腔ケア、検査の付き添いなど身の回りの幅広い支援を担当します。これらの支援は、患者さんにとって「日常生活そのもの」であり、入院中のストレスを和らげ、安心して過ごせる環境づくりに直結しています。入院患者さんにとっては、毎日の生活でよく顔を合わせる身近な存在であり、必要なときにそっと手を差し伸べてくれる存在です。

右の写真のユニフォームを着たスタッフが看護補助者です。入院中に困ったことや不安なことがあれば、気軽にお声かけください。

2. 当院ならではの活動

●看護補助者の夜勤配置

当院では、夜勤にも各フロアに1名ずつ看護補助者を配置し、24時間体制で病棟のケアを支えています。夜間は看護師の人数が限られるため、「カーテンを開けてほしい」「トイレに行きたい」といったナースコールには看護補助者が対応しています。そうすることで、看護師が本来の看護師業務に集中でき、夜間の看護体制の充実につながっています。



このユニフォームを着たスタッフが
看護補助者です

●安全でやさしい

高齢患者さんや認知症患者さんのケアを目指して

当院では、看護補助者が安全でやさしいケアができるよう、看護師による研修を定期的実施しています。研修では、高齢患者さんへの食事介助の演習や、認知症の症状に対する理解を深めるとともに、効果的な声かけの方法や、不安を和らげる会話の工夫、見守りのポイントなど、実践的な内容を学んでいます。

患者さんの表情の変化やちょっとした違和感に気づけるのは、日々近くで接している看護補助者ならではの強みです。不安を抱えやすい認知症の患者さんにとって、毎日顔を合わせる看護補助者の存在は、大きな安心感につながっています。



研修会の様子

●転倒・転落予防のための巡回

転倒・転落のリスクがある患者さんについては、看護師と情報を共有し、定期的な巡回を行うなど、安全対策にも積極的に関わっています。こうした日々の見守りが、重大な事故の防止に直結しています。

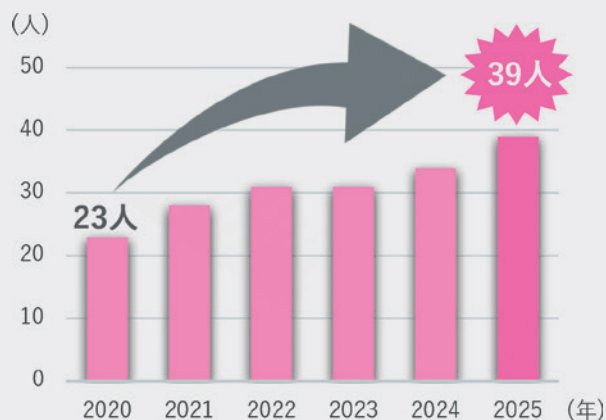
さらに、看護補助者が病棟業務の一端を担うことで、看護師が安心して休憩を取れるようになり、働きやすい環境づくりにも貢献しています。職種を越えて支え合うチーム医療の要として、看護補助者の存在はますます重要になっています。



看護師と連携

3.「看護補助者」の存在感が高まっています

ここ数年、全国的に看護補助者の人数が増加傾向にあります。当院でも病棟の支援体制を強化するため、着実に配置を進めてきました。人数の増加は単なる数の変化ではなく、「誰がどの役割を担うか」という視点でチーム医療を見直し、より効率的で安全な看護体制を整える第一歩でもあります。看護師と看護補助者がそれぞれの役割を明確化しながら、互いに連携してケアに当たることで、より安全で快適な入院生活を実現します。



当院における看護補助者数の推移

患者さんの笑顔が私たちの原動力です

患者さんの日常生活をサポートし、感謝の言葉や笑顔に触れることで私たちも自然と笑顔になれます。医療チームの一員として、患者さんの回復を支える実感が得られることも魅力の一つです。看護師のサポートを通して経験を積み、医療や介護の知識を学びながら、患者さんのそばで寄り添えることが看護補助者としてのやりがいだと感じています。



8階西病棟 集治 紗耶

リハビリ通信

夏を乗り越えよう! ～「暑熱順化(しょねつじゅんか)」で、夏に負けない体に～

リハビリテーション技術科 作業療法士 大橋 涼加

はじめに

近年地球温暖化も進み、例年災害級の暑さが観測される地域もある日本において、夏を健康に過ごすための対策は必須です。気温も湿度も高い夏でも体力、集中力を落とさず快適に過ごせるかは、実は夏に向けて暑さに身体を順応させる「暑熱順化」ができているかが鍵になります。今回は体が暑さに慣れること(暑熱順化)について知り、対策方法や有効なトレーニングなど説明していこうと思います。

暑熱順化とは?

「暑熱順化」とは、徐々に体を暑さに順応させることで、「暑熱順応」とも呼ばれます。冬から夏になるにつれて徐々に体は暑さに順応していきますが、近年では暖房・冷房の室内快適化により、寒暖に順応する体の機能が弱くなって暑さに負けてしまう人が多くなっています。



暑熱順化の注意すべき時期と大事なポイント

熱中症・夏バテの予防となる「暑熱順化」に有効な対策は、「発汗」と言われています。体温が低く汗をかきづらい冷え性の人や、日頃から水分不足の人、運動不足の人、また年齢が上がるにつれて発汗機能も衰えがちになるため特に注意が必要です。暑熱順化は本来暑さに向けて前もって身体を順応させる事が大切になってきます。暑熱順化には個人差もありますが、数日から2週間程度かかると言われています。今からでも遅くはないため日常生活の中で、運動や入浴をすることで、汗をかき、体を暑さに慣れさせましょう。

→暑熱順化ができていない可能性が高いタイミングは

①5月の暑い日 ②梅雨の晴れ間 ③梅雨明け ④お盆明けと言われており特に熱中症に注意が必要です。

暑熱順化の具体的なトレーニング紹介

暑熱順化トレーニングを5つほど紹介いたしますが、実施時はそれぞれの体質・体調、その日の気温や室内環境に合わせて無理のない範囲で行ってください。

- ①ウォーキング・ジョギング ②筋トレ・ストレッチ
- ③サイクリング ④入浴 ⑤サウナなど

※運動時は屋外や室内の天気や気温などの環境の変化に注意し、水分や塩分を適宜補給して、熱中症に十分注意してください。



新外来棟に幅14mの巨大アート! 作者:ブライアン・ウィリアムズ氏のアトリエに潜入!

2027年2月に完成予定の新外来棟に、幅14メートルにも及ぶ巨大アート作品が設置されます。手がけるのは、画家歴59年、現在75歳のブライアン・ウィリアムズ氏です。これまでに数々の作品を発表してきたブライアン氏も、「このスケールの作品に挑むのは初めてです。画家として人生で一度は挑戦してみたかった」と語り、今回の依頼を特別なものと受け止め、情熱を込めて制作に取り組まれています。

描かれるのは、滋賀県の風景画です。比叡山、沖ノ島、伊吹山など、実際には一度に見ることができない景色を、一枚の風景画として表現しています。左から右に季節が移ろうように構成されており、びわ湖の四季折々の豊かな表情を描き出しています。この絵画のポイントは「光の表現」です。全体を通して統一感のある風景になるように太陽光の色や角度を調整することで、ひとつの世界として違和感なく表現されています。



巨大アートの制作現場



絵画の説明をするブライアン氏



完成予想図

ブライアン氏の作風は「曲面絵画」と呼ばれ、まっすぐな四角いキャンバスではなく、ゆるやかなカーブのある土台に描くのが特徴です。人間の視野が丸く広がっていることに着目し、見る人がまるで自分の視界の中に風景が広がっているように感じられる、臨場感のある絵画を目指しています。現在は、その特別なキャンバスの土台を作っている段階です。7月には、絵



筆を執るブライアン氏

画を描き始められるように準備を進めています。

このプロジェクトは、単なる装飾ではありません。ブライアン氏は、今回の依頼を受けた理由について、「病院は合理的な設備だけでなく、やわらかさや癒やしが必要である」という三木恒治院長の言葉に深く感銘を受けたと話しました。

病気やけがで不安を抱えている人にとって、心が落ち着く空間はとても大切です。ブライアン氏は、「この絵画が患者さんの心に安らぎを届ける治療の一部として機能してくれたなら嬉しいです」と語りました。

展示は新外来棟の建設後を予定しています。新しい外来棟に訪れるすべての方の心に届く壮大なアートの完成を、ぜひご期待ください。

日々の感謝を込めて ボランティア3名が表彰されました

2025年5月29日(木)、日頃から当院を支えていただいているボランティアの西村峰男さん、赤井洋子さん、田中治さんの3名に感謝の気持ちを込め、表彰式を開催しました。

2023年度と2024年度の活動実績から、西村さんは延べ111日336時間、赤井さんは延べ80日153時間、田中さんは延べ21日70時間、当院の外来ボランティアの活動にご尽力いただき、今回表彰となりました。また、西村さんは2012年から当院の外来ボランティアとしてご活躍いただいております。コロナ禍などによる活動中止期間を除き、昨年度で活動10年目を迎えられたため、活



前列左から田中さん、赤井さん、西村さん



活動10年目を迎えられた西村さん。三木院長からそれぞれに感謝状と記念品が贈られました。

動年数における表彰も併せて実施されました。

当日は三木恒治院長から感謝状と記念品が贈呈され、感謝の言葉が述べられました。表彰式の後には意見交換会が行われ、ボランティアの皆さまからは患者さん目線で見た「困りごと」や「よくある相談」など、現場ならではの声が寄せられました。より良い病院づくりに向けた前向きな議論が交わされ、非常に実りある時間となりました。

今後も、患者さんに寄り添う病院であり続けるために、ボランティアの皆さまとともに歩んでまいります。

ドクターヘリ拠点で研修・見学会を開催

2025年6月27日(金)、京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターの研修プログラム『Project KPUM重症患者に対応できるジェネラリスト養成プロジェクト』の一環として文科省から採択された「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」にて、京滋ドクターヘリ拠点地での研修・見学会を開催しました。当院での開催は2回目となり、今回、京都府内で勤務する看護師と看護学生の13名が参加しました。当院の救命救急センター副センター長である平泉志保医師から「病院前診療を知る-フライトナースのお仕事-」の講義を受け、その後、実際のドクターヘリの機体や機内を見学しました。

受講者は真剣に耳を傾け、熱心にメモを取

る様子が見受けられました。見学会では救急バックやヘリ機内を実際に見学し、使用される医療資材や薬剤の管理方法など、興味深い情報について積極的な質問が飛び交いました。

今後も、ドクターヘリ基地病院の一員として、プレホスピタルケアに関心のある看護職の方々のキャリア形成をサポートし、教育機関との協力を進めていきます。



採血の待ち状況をYouTubeから確認できます

採血の順番をYouTubeでリアルタイムに確認できるようになりました。画面には受付番号が表示されています。ご自身の番号が近づいてきましたら、採血室前までお越しください。採血の内容によっては順番が前後することがあります。お呼び出しの際に不在の場合は、再度受付までお越しください。

《 採血待合案内 》

採血室の待ち時間 約 5 分です

2015

番までの方は、
中待合でお待ちください

採血台①

2010

採血台④

2011

採血台②

2012

採血台⑤

採血台③

2009

採血台⑥

2007

下記の番号の方はお呼びしましたがご不在でした、受付へお越し下さい。

1029

順番が前後する場合がありますが、予めご了承ください

[YouTubeチャンネル]

チャンネル名:済生会滋賀県病院

→ライブ配信からご確認いただけます



▲YouTubeはこちら

[Wi-Fi]

院内では無料のWi-Fiをご利用いただけます。

詳細は院内の掲示板をご確認ください。

市民公開講座のお知らせ 「医療の最前線 ～ロボット手術のいま～」

近年、医療現場の技術力は飛躍的な進歩を遂げており、特に手術支援ロボットを用いた低侵襲手術は、医療の質を大きく高めるものとして注目されています。本公演では、それらの技術を実際に扱う泌尿器科・産婦人科・外科の医師3名が現代のロボット手術の実態についてわかりやすく解説します。

【日程】2025年8月23日(土) ※申込不要

【会場】栗東芸術文化会館さくら

【参加費】無料 ※交通費・駐車場料金は自己負担となります

参加無料・申込不要で、どなたでもご自由にご参加いただけます。詳細は右の二次元バーコードからご確認ください。



お問い合わせ

TEL:077-552-1221(代)

担当:経営企画課



▲市民公開講座の情報は
こちらで配信しています

当院では無料低額診療事業を実施しています

詳細は当院ホームページをご確認ください。



▲HPIはこちら



まちの診療所紹介

かかりつけ医をもちましょう

「かかりつけ医」は患者さんやご家族が、身近に日常的な治療及び健康管理について相談できるお医者さんです。体調の変化で気になることを気軽に相談できる関係性を築くことで、病気の早期発見や予防につながります。自宅や職場の近くにかかりつけ医をもっていただくことをお勧めします。



滋賀県大津市本堅田6丁目3-47
TEL. 077-526-6705

【診療科目】

整形外科、リウマチ科、
リハビリテーション科

【休診日】

日曜日、祝日



▲HPIはこちら

受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	/
16:00~18:30	○	○	○	/	○	/	/

大津市

堅田いけざき整形外科

院長 池崎 龍仁 先生

～患者様一人ひとりに合わせた最適な治療を提供します～

当院は2025年5月、大津市本堅田に開院した整形外科クリニックです。腰痛や膝・肩の痛み、関節疾患、骨折・捻挫などの運動器疾患に幅広く対応しています。関節リウマチの診療では、超音波検査を活用し、関節の炎症を早期に評価・診断することで、初期段階からの的確な治療を行います。また、骨粗鬆症の予防と治療にも注力し、骨密度や血液検査に基づく精密な評価と適切な内服治療を実施しています。

理学療法士による個別リハビリも行い、地域の皆様の「動ける毎日」を支えてまいります。



滋賀県甲賀市水口町貴生川293-1
JR貴生川駅より徒歩3分
TEL. 0748-62-3346

【診療科目】

内科、外科、肛門科、訪問診療

【休診日】

月曜日

【受付時間】

午前診 8:45~12:15 午後診 15:45~18:45

【担当医】

中島 恭二…内科、外科、肛門科、訪問診療
藤井 要…内科（第1・3の水曜と土曜 午前のみ）

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:30	/	○	○◆	○	○	○◆	◎
13:30~16:00	/	訪問	訪問	訪問	訪問	訪問	◎
16:00~19:00	/	訪問	○	○	○	/	/

○中島 ◆第1・3週 藤井 ◎日曜日、祝日は当番医

甲賀市

甲賀市立みなくち診療所

院長 中島 恭二 先生

～平日・夜間診療、訪問診療を開始～

5月1日より、これまでの休日診療に加えて、平日診療、夜間診療、訪問診療を開始しました。外来は診療科を問わない総合診療を中心とし、幅広い疾患の初期診療にあたります。ワクチン接種、健診など地域の健康づくりもサポートいたします。地域のかかりつけ医としてお気軽にご利用ください。

また在宅療養支援診療所として訪問診療にも力を入れていきます。通院できない方もお気軽にご相談ください。



病院理念

私たちは、済生会の「救療済生」の精神に基づき、安全で質の高い医療の提供と、心温まるサービスを実践し、地域の皆様の安心と幸せな未来へ貢献します。

かけはしNo.238 2025年8月

発行元 社会福祉法人 済生会滋賀県病院

〒520-3046 滋賀県栗東市大橋二丁目4番1号

TEL (077) 552-1221 (代) URL <https://www.saiseikai-shiga.jp/>